

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

ウメ バラ科

- ・学名 *Prunus mume*
- ・夕照の庭付近に植栽

寒さの中にも日差しなどによる温かさを感じ、春の気配が感じられる季節となりました。公園内でも梅も開花をはじめ、春の訪れが感じられます。



梅は広く観賞用や果樹として栽培されている落葉小高木です。花期は1～3月で6～7月に結実します。日本には奈良時代以降に渡来したと考えられています。通常では花の色が白色だが、紅色や淡紅色の園芸品種も多数あり、花を観賞することが目的である「花ウメ」と実の収穫が目的である「実ウメ」に分けられます。観賞用の「花ウメ」だけでも300品種以上存在します。

花ウメの分類ははっきりした定義があるわけではないのですが、花や枝の特徴から3つの系統に分ける事が一般的となっております。その3系統は「野梅系」「緋梅系」「豊後系」です。野梅系は多くの品種が属するグループで若枝の日の当たる面が日焼けしたような色をしているのが特徴です。一方、反対側は緑色をしています。緋梅系は枝の内側が赤色をしているのが特徴です。内側が確認できない場合は若枝が全体的に浅黒いので確認できます。豊後系は枝の表面が赤茶色で節がごつごつしているのが特徴です。また、アンズとの交配種であるため、開花時期が遅い品種もあるそうです。上記の系内でも種類が細分化されており、そこから、梅の品種の多様さが読み取れます。



品種の多様さからもわかる通り、梅は奈良時代ごろに中国から日本に伝わって以来、日本人の目を楽しませています。日本最古の歌集である「万葉集」では120首もの歌が残されています。作者には貴族が多い傾向にあることから、庭園などで酒宴の合間に歌が詠まれたと考えられており、梅が観賞用の花として愛でられてきたことが分かります。

花だけでなく、古木の幹や枝、樹皮に付着する地衣類も主に染物の染料として利用されてきました。幹や枝を利用した染物は「梅染」といい、加賀友禅のルーツとされています。梅の種類や樹齢、煮出す時間により褐色がかった桃色や黒っぽい色に染めあがります。地衣類による染物は「地衣染め」と呼ばれ、主にヨーロッパで伝統的に行われていました。梅の表面に付着する地衣類のウメノキゴケも同様に染色に利用でき、アンモニア発酵法という染め方では、鮮やかな紫紅色に染めあがります。



ウメの幹の表面の地衣類
(ウメノキゴケ属 *Parmotrema* spp.)

ウメの実を利用した梅干しは健康に良いといわれますが、現在の研究でウイルスに対する増殖阻害性があることが示唆されています。和歌山県みなべ町の委託研究では梅干し抽出液が新型コロナウイルスによる細胞への感染や増殖を抑制するとの報告がありました。この結果は梅干しの摂食が上記ウイルスに効くという直接的な証拠ではありませんが、梅が健康増進に役立つことが科学的に証明されていると言えます。

このように梅は美しさと実用性を兼ね備え、私たちの生活を豊かにしてくれています。これだけ多くの品種があるのもこれまでたくさんの方が梅に魅了されてきたからかもしれません。花見といえば桜を連想させる方も多いと思いますが、ぜひ公園内の梅も見に来てください。

(龍谷大学先端理工学部・栞原萌葉)

❀ ウメは [ここ](#) で見ることができます(クリックで Google マップにリンク。10m程度の誤差が出ることがあります。)

(参考サイト・文献)

[山本晃. “梅染 再び咲いた紅色 明治期に途絶えた古代の技 試行錯誤繰り返し復活”. 日本経済新聞. 2019-1-29. \(最終閲覧日:2023年2月27日\)](#)

[BuNa編集部. “梅の種類と見分けかた 一専門家に聞く“花ウメ”の鑑賞法”. 株式会社文一総合出版. 2019-2-19. \(最終閲覧日:2023年2月27日\)](#)

[重留妙子.万葉集における梅の歌考.熊本女子大学国文談話会.1980,26,6-14](#)

[一般財団法人梅研究会. “梅の歴史”. \(最終閲覧日:2023年2月27日\)](#)

[大阪医科薬科大学. “梅ポリフェノールが新型コロナウイルスに対して阻害効果を持つことが明らかに—紀州田辺うめ振興協議会\(田辺市・JA紀南\)との受託研究—”. 2022-3-18. \(最終閲覧日:2023年2月27日\)](#)

大坪孝之(2017). ウメハンドブック. 株式会社 文一総合出版.